

# 昭和60年度定期総会開かる

# 三翠化学会

(題字は福川先生)

第23号  
昭和60年10月31日発行  
三翠化学会  
津市上浜町1515  
三重大学農芸化学科内  
電話/津(0592)32-1211  
振替/名古屋9-59345  
印刷/株式会社ある  
田(052)332-0861大8長谷川

## 新会長に 渡辺和巳氏が就任

昭和六十年度の定期総会が去る五月二十六日に近鉄四日市駅前の農協会館で開催された。この総会では役員の変更が行われ、昭和五十二年度から四期八年度間会長を務められた岡田芳次郎氏が勇退され、代わって渡辺和巳氏(専一)が新任会長に就任された。



### 会長就任のご挨拶

去る五月二十六日、四日市市農協会館において開催されました昭和六十年度定期総会において、はからずとも会長に推挙されました。会長の重責は浅学非才の身には誠に心苦しいのでありますが、一旦お引受け致しましたからには、微力ではありますが、有効適切な運用を期して、会員

各位のご意見を反映してまいりたいと存じます。既に東支、東海支、三重支、関西支に続き五十九年には西支も結成され、夫々活発な活動が行われております。このご承知の通りであります。支部活動におきましてもいろいろご工夫もいただいております。例えば、三東支では、川遊び、森林浴、キャンプ等々、会員のみならず家族ぐるみの交流親睦がはかられ、成果をあげておられます。

年々会員数の増加する反面、年令の開きも避けられない所ですが、先輩、新顔共々心おきなく気軽にお付き合い出来るのが同窓会の有難さであります。年一回の総会には申すに及ばず各支部活動にも積極的に参加頂き盛り上げて頂きたいと思っております。本会が益々大同団結し隆昌発展することを、併せて明日への進展の資となればと祈念するものであります。

甚だ簡単でございますが、会長就任のご挨拶と致します。

表して渋谷氏(大4)が宇賀漢で行う八月行事の案内をした。宴たけなわとともに赤木先生の詩吟、伊藤氏(大6)のヨール、豊田兄弟(専一・大6)のデュエットと続き、藤田氏(専一)差入れのサントリウイス、キー・ハイボールや、河合氏(大3)、清水氏(大3)差入れの冷用酒片手に歓談が続き、いつしか午後二時をかなりまわっていった。

最後に、この総会の設営を一手に引き受けてご尽力いただいた三重支部長佐々木敏雄氏と同支幹事の方々に厚くお礼申し上げます。

昭和六十年度の定期総会が去る五月二十六日に近鉄四日市駅前の農協会館で開催された。この総会では役員の変更が行われ、昭和五十二年度から四期八年度間会長を務められた岡田芳次郎氏が勇退され、代わって渡辺和巳氏(専一)が新任会長に就任された。当日は午前十一時から出席者九十一名によって定期総会が開かれ、続いて三重支支部総会が簡略に行われ、そのあと、恩師を囲んで懇談会が盛大にもれた。



### 昭和60・61年度 三翠化学会役員

(会長) 渡辺和巳(専一)  
(副会長) 嶋田協(専三)、岡田久司(大3)  
(理事) 今西勝(専一)、岡田芳次郎(専一)、鈴木幸郎(専三)、福田映(大1)、小林重一(大2)、辻村恒(大3)、渋谷明(大4)、長谷川

(監事) 若林生(専一)、中川潔彦(専二)  
(評議員) 倉田三郎(専一)、若林敏昭(専二)、奥田孝夫(専三)、西山正之(大1)、橋本忠大(大2)、開雲明男(大3)、稲葉五郎(大4)、板

(幹事) 萩本義雄(大4)、高橋孝雄(大6)、小畑仁大(大15)、田口寛(大17)、西川司朗(大20)、田中実大(大20)、久松真(院8)

(基金運用委員会) 渡辺和巳(専一) 委員長  
1. 古山順啓(大24) 庶務担当委員 鈴木幸郎(専三) 高橋孝雄(大6) 委員  
2. 小林重一(大2) 辻村恒(大3) 豊田治男(大6) 林真栄(大11) 池山久(大16) 辻静夫(大19) 益川博(大30) 中

### 三翠化学会基金決算報告

(昭和60年5月26日)

◆収入の部(単位:円)  
前年度よりの繰越 2,314,031  
国債利息(40万円×20万円) 42,348  
定額郵便貯金利息 82,836  
通常郵便貯金利息 5,015  
国債償還差額 1,280  
計 2,445,510

◆支出の部(単位:円)  
支部補助金(20,000円×4口) 8,000  
昭和59年度卒業生記念品費 20,700  
新入生歓迎会費(昭和59・60年度分) 60,000  
こより補助費 30,000  
雑費 650  
計 191,350

◆差引き残高.....2,254,160  
(次年度に繰り越し)

◆基金管理内容(単位:円)  
定額郵便貯金(20万円×7口・10万円×1口・5万円×1口) 1,550,000  
国債(40万円×1口・20万円×1口) 597,340  
通常郵便貯金 106,420  
現金 400  
計 2,254,160

長委嘱と幹事の理事会委員が会長によってなされた。次に基金関係の審議に移り、基金運用委員会の嶋林会計担当委員(専一)から基金の資産と運用状況の報告があり、監査報告を今西監事が行い、いずれも承認された。

ここで中川、高橋前副会長の辞で総会を終え、次の行事を三重支支部へ引継いだ。三重支支部では、この場を簡略にした支部総会として承認略の紹介があった。

各支部の支部報告として、松村岡西支部長(専一)の挨拶、東海支部の活動状況を酒井氏(大16)から、三重支支部を代

表して渋谷氏(大4)が宇賀漢で行う八月行事の案内をした。宴たけなわとともに赤木先生の詩吟、伊藤氏(大6)のヨール、豊田兄弟(専一・大6)のデュエットと続き、藤田氏(専一)差入れのサントリウイス、キー・ハイボールや、河合氏(大3)、清水氏(大3)差入れの冷用酒片手に歓談が続き、いつしか午後二時をかなりまわっていった。

がいた旨旨本(大4)が提案し、賛成を得てから、新支部長の選出に入った。そこで、渡辺前支部長が推挙する佐々木敏雄氏(専二)を指名、全会一致で同氏を新三重支支部長に選出した。つづいて佐々木新支部長の就任挨拶があり、支部総会を閉じた。

### 59年度三翠化学会事業報告

S 59. 4.15 昭和59年度総会(於・名古屋市)  
7.13 第1回役員評議員会・第1回基金運用委員会  
11.10 会報第21号発行  
12.7 第2回役員評議員会・第2回基金運用委員会  
S 60. 2.15 第3回役員会  
3.31 会報第22号発行

### 59年度三翠化学会決算報告

(単位:円)

科目	予算額A	決算額B	増減(A-B)	備考
(1) 収入の部				
会費	700,000	637,500	62,500	1,000円×700人
繰越金	197,115	197,115	0	
雑収入	10,000	4,028	5,972	預金利息
(合計)	907,115	838,643	68,472	
(2) 支出の部				
会報印刷費	400,000	205,000	195,000	21号・22号
郵送通信費	230,000	207,680	22,320	郵送料
会議費	120,000	101,574	18,426	役員会・総会等
貸付金	80,000	85,000	△5,000	アルバイト貸金
事務費	10,000	8,740	1,260	
負担金	30,000	30,000	0	三翠会支部連絡協議会負担金
予備費	37,115	—	37,115	
諸支出金	—	60,450	△60,450	振替手数料10,450 見舞金3件50,000
(合計)	907,115	698,444	208,671	

(差引) 収入838,643円-支出698,444円=140,199円(60年度へ繰越)

### 60年度三翠化学会事業計画案

S 60. 5.10 第1回役員評議員会・第1回基金運用委員会  
5.26 60年度総会(於・四日市市)  
7月 第2回役員評議員会・第2回基金運用委員会  
8月 会報第23号発行  
12月 第3回役員評議員会・第3回基金運用委員会  
S 61. 2月 第4回役員評議員会  
3月 会報第24号発行

### 60年度三翠化学会予算案

(単位:円)

科目	60年度予算A	前年度予算B	増減(A-B)	備考
(1) 収入の部				
会費	700,000	700,000	0	1,000円×700人
繰越金	140,199	197,115	△56,916	
雑収入	10,000	10,000	0	預金利息
(合計)	850,199	907,115	△56,916	
(2) 支出の部				
会報印刷費	350,000	400,000	△50,000	23号・24号
郵送通信費	230,000	230,000	0	
会議費	100,000	120,000	△20,000	
貸付金	80,000	80,000	0	アルバイト貸金
事務費	10,000	10,000	0	
負担金	30,000	30,000	0	三翠会支部連絡協議会負担金
予備費	50,199	37,115	13,084	
(合計)	850,199	907,115	△56,916	



# 職場紹介

— 試験場巡り —

## 三重県工業技術センター化学部醸造課

課長 鈴木克己(大2)

卒業後早や二十一年という歳月が流れ、三重県醸造試験場の職員となったのがつい先日の事のように思われます。精神的にはいつまでも気が若いのですが、頭の毛が少しづつ薄くなり、おなかの方はビール腹の中年太りで、肉体的にはやはり年をとったなあという気のするこの頃です。

私の職場醸造課は津駅から徒歩五分の所にあり、建物は三十七年に県醸造試験場として設立され、五十六年に組織が工業技術センターに統合され、化学部醸造課となり、現在職員四名(内技術吏員三名)という少人数の

家族的雰囲気職場です。仕事は設立当初から、主として県内の清酒製造業者を対象とした研究、指導、分析を行なってきた。研究は清酒の試験製造を五十八年まで毎年約八キロリットル製造してありまして、杜氏二名を新潟から半年間雇い、職員も泊り込んで、県内産原料米、新しい酵母、麹菌等による仕込試験、純米、吟醸酒の仕込試験等種々のテーマにより研究を行

なってきました。指導はきき酒、分析による技術指導と冬の巡回指導があります。三百点以上の利き酒をして、首から上だけ酔いが回って何ともいえないいな気分になることもあります。巡回指導で三十年近くも酒造りに従事している杜氏さんを前にして話をすることは最初は非常に気運れを感じました。五キロリットルも入っているタンクの醪が数本一夜のうちに酸がふ

て、成圃化までにはあと少くとも五、六年の歳月が必要であろう。建物の内訳を記すと本館は二階建て、一階が事務室、研修室、図書室等から成り、二階は化学、病害虫、栽培実験室等となっている。その他別棟として製茶工場、再製工場、機械格納庫、収納倉、ガラス室等があり、建物総面積は千八百余坪で旧施設と面積は大差ないが、木造から近代的建築に変化した一応快速な研究施設となった。そのほか業界からの寄附による資料館が敷地の一角に建設され、内部には展示室、茶室が設けられた。

このように施設が完成した上は、今後の研究活動の活性化に責務の重大さを感じる昨今である。しかし、本県の研究機関は研究、教育、指導の三機能を有すべき組織となっており、研究スタッフは小生を含めて七名で、他府県と比較して著しく少ない陣容である。このうちわが化学の同僚は専ら二若林との二人で、あとは静大、名大卒等である。この少ないスタッフで茶に関する品種、栽培、土肥、病害虫、加工等の全研究分野を分担しているのが研究内容は勢い浅く広くなり勝ちで研究の深化

## 新装なった三重県茶業センター

庄山 孝義(専一)

茶の生産高では本県は静岡、鹿児島に次いで全国第三位であるが、全国的なシェアは七%であり、静岡県が圧倒的に優勢で五〇%を占めている。我が国で生産される茶の種類は煎茶が総生産量の八〇%近くを占め、次いで九州地域の玉緑茶があり、三重、鹿児島を中心としたかぶせ茶があり、愛知、京都のてん茶、福岡、京都を中心とした玉露など総生産高は年間約十万吨で、日本で生産される茶はすべて緑茶に属するものである。

上に不可欠の必需飲料になっていくのは、現実的には無くても不自由を感じる程のものでないようにも思われている。戦後、食生活の向上に伴う嗜好品が年々変化するなかで、米の消費減退に追随して茶の消費も減少傾向を示しており、国としても増産を抑制しているのが現状である。

このような情勢のなかで天然自然の飲料である緑茶を消費者に見直して貰うため、消費宣伝のために毎年全国レベル、地域レベルで茶業振興大会が継続されているが、本年度は第39回全国お茶まつり大会が十一月八日～十日の三日間にわたり四日市文化会館で開催され、出品茶、機材、県特産物等の展示や実演、茶の無料接待、講演会等の諸行事が計画されている。丁度、

この大会に合せた茶業センターの移転整備が行なわれたのでその概要を述べることとする。場所は亀山市椿町で現在地より北方約五百米の台地にある。亀山―石水溪線の道路沿いである。

全国の茶生産県では、それぞれ自然条件、栽培法、加工方法などが若干異なることから各県の実情に応じて茶の試験研究機関を設置しており、北は茨城県から南の沖縄までその数は二十を超える。

三重県では明治四十二年に津市内に茶業組合連合会事務所内に茶業試験場を附設し、大正十五年県に移管して三重県茶業試験所として独立、昭和十二年に現亀山市へ移転、昭和二十五年三重県農業試験場茶業分場、昭和四十五年三重県農業技術セン



が出来にくい現状である。府県の試験場は大学や国の研究機関と異なり、現場での問題を解決するための研究が主体となっているので、自分の好きな研究をやりたいには行かぬ実態ではあるが、これは研究者として満足できない。研究者は、一般的な課題以外に自立的発想に基づき将来想起される問題も含めて、或程度自分の生涯の柱となる研究課題を持つべきであると考えている。

現在までに試験研究機関の研究成果が農家の経営を向上させるのに大きく貢献してきているのが、農家の技術レベルはかなり向上してきており、今後さらに一層理論的準備をした研究を行行かねばならぬと考える。生産費の高騰、消費低迷のなかで茶農家の生産性向上と消費拡大のために優良品種の開発、栽培管理技術の合理化、病害虫防除回数削減、新製茶の開発等数多くの課題解決に向けてスタッフ一同は新施設で心を一新して邁進して行くという意欲に燃えている。

終りになりましたが、職場は国鉄亀山駅から二・五kmの近くで、三交バスの便もありますので同窓諸氏の御来場を歓迎します。

## 真珠の見分け方

ジュン・パール 伊勢市 市川 淳(専3)



無沙汰さみです。梅林先生のようにはいきませんが、何とか続けて将来個展でも開けたらと思つています。

この様に醸造課は清酒に関する仕事をずっとやってきたわけですが、五十九年から新しく梨ワイン、ブランド等の開発を手がけています。センターの周辺は梨の果樹園が多く、この梨園から長十郎梨の二級品を購入し、ジュースで搾汁した果汁について種々の発酵試験を行い、梨ワインの試験製造を行いました。梨の果汁は香味が淡白であるため梨ワインも味が軽く、香味に特徴が少なく、今後

等、赤道に近い所で養殖される南洋真珠は白蝶貝を使い直径十七mmの真円真珠を作るもので、数量も少ないので価格も高く高級な指輪等に使用されます。又半円真珠(ハーフパール)と言う上半分の真珠(下半分は貝殻をくっつけたもの)もありますが皆様には余り馴染みがないと思います。次に真珠の見分け方ですが、専門的には各種機器を使う鑑別方法がありますが、何しろ世界一うるさい日本の役所が度量衡をメートル法に統一した時にも真珠の重量がけは(モンメ)の使用を認め、真珠の重量は世界共通単位で勿論使用している様な旧態依然とした業界の事ですから真珠の鑑別はあくまで経験と熟練された目による勘に頼っています。私も真珠業界に入り三十三年間、毎日色々な真珠を見て居ますが未だに見間違ふ事も有るくらい難しいものです。次に素人向き真珠の見分け方ですが、次の様な点に注意して頂ければ比較的分かり易いと思つてますので参考に書いて見ました。

※型が丸い事(変形の中にも良い物がありますが、一般論として)

※傷が無い事(無傷のものは非常に少ない。半面、傷のあるものは偽物では無い証拠とも言えるくらいです)

※巻き厚の厚い物(真珠層の厚さの事ですが見た感じに重厚さがあり軽薄な感じに無い事、このポイントが専門家でも難しい所です)

※テリの良い事(真珠層の表面と内部からの総合的な光沢によるもの)

※色はピンク系が最高とされていますが、これにブルーまたはグリーンの混じった色も高級品ですが、色はあくまでも個人の好みにより決まるとは思います。

結論として皆様が真珠を購入される場合には、信用のおける店を選ぶ事、そして真珠に興味を持ちネックレス等の真珠製品を持つて居る友人がいればその人と一緒に頂いて頂くと、真珠と比較すること、これがベターな方法だと思つてます。

専門的な事は書いても分かりにくいと思つてますので、この文で物足りぬ方は市川か平田まで連絡を下されば詳しく説明させていただきます。

今私は...

卒業以来永年になつて、この道一筋に生きてこれ、一人立ちしておられる方々に次々とした筆を依頼されました。①真珠の見分け方 ②美味しい日本酒を造るには ③食料品販売のコツ ④市会議員に当選する秘訣

短い期間に、お二人から御返事を頂きました。編集の都合でアイディアがあまりありませんが、自薦他薦いづれでも結構ですので御連絡下さい。

編集するにあたって K.S







